＜『環境と公害』（岩波書店）第 32 巻第 3 号、2003 年１月号、ＡＰＮＥＣ特集掲載＞

ＡＰＮＥＣ-６の報告

寺西　俊一

昨年（2002 年）11 月 1 日（金）～11 月 4 日（月）、台湾の高雄市で「第 6 回アジア・太平洋ＮＧＯ環境会議」（APNEC-6）が開催された。今回は、台湾海洋基金（同事務局長：邱文彦氏・台湾中山大学助教授）が中心となり、台湾調査基金、ウエットランド台湾、台湾国立中山大学、アジア環境会議（Asia-Pacific Enviornmental Council）、日本環境会議、日本ラムサールセンター、国際開発調査基金東アジアネットワークの共催という形で実施された。この APNEC-6 には、地元の台湾をはじめ、日本、韓国、中国、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ネパール、バングラデシュ、オーストラリア、また、カナダやアメリカからも含めて、14 カ国・地域から 300 名余が参加した。そこでの顔ぶれも、環境ＮＧＯ関係者、環境問題・環境政策にかかわる大学研究者、大学院生・学生、各種研究機関の専門家、弁護士等の法律家、国際機関関係者、行政関係者、ジャーナリスト、環境被害者やその支援者、一般市民など、きわめて多彩なものであった。とくに今回は、11 月２日の開会式で、台湾総統の陳水偏氏や高雄市長代理（副市長）からの熱烈な歓迎スピーチが行われたことがきわめて印象的であった。以下、APNEC-6 全体の詳細な実施プログラムの記録については割愛し、この会議の大枠のみ、簡単に報告しておきたい（詳細な記録は、日本環境会議のホームページに掲載してあるので、そちらを参照して頂ければ幸いである。http://www.einap.org/jec/index.html）。

今回の会議では、11 月２日・３日の２日間にまたがって、13 の課題別セッション（S1-A：水管理、S1-B：海洋と沿岸域管理、S1-C：湿地保全、S2-A：国土利用と都市環境、S2-B：生物多様性、S2-C：湿地と人々の意識、S3-A：グリーン・エネルギーと環境管理、S3-B：廃棄物管理、S3-C：賢明な湿地利用、S4-A：地域的な環境問題、S4-B：コミュニティ教育、S5-A：公私のパートナーシップ、S5-B：環境教育とＮＧＯの役割）が設置され、多彩な報告が行われた。日本からも計 12 本の報告が出された。また、11 月３日の午後には「国連ヨハネスブルグ会議」をめぐる特別パネル討論が、台湾政府の環境特命大臣に任されている葉俊栄氏（台湾大学法学部教授）の司会によって行われた。そして、その後の閉会式では、「高雄宣言」（後掲）が採択され、成功裡に閉幕した（次回の APNEC-7 は、ネパールで開催予定）。

なお、この閉会式では、今回の主催者である台湾海洋基金からの提案により、長年にわたる水俣病問題での貢献を称えて原田正純教授と宇井純教授に対し「アジア・太平洋環境賞」が授与された。また、韓国の Kim,Jung-Wk 教授（APNEC 事務局長）、淡路剛久教授（日本環境会議理事長）、磯崎博司教授（日本ラムサールセンター代表）、そして私（日本環境会議事務局長を含む 4 名に対しても、今回の APNEC-6 に対する功労賞が授与された。翌 11 月４日（月）には、２つのコースでの現地視察も実施され、全体として、きわめて有意義な会議となった。

＊この会議の開催経費の一部は、平成 14 年度地球環境基金からの助成を受けた。